

JSPS Strasbourg Office

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告（2006年4月～6月号）

ストラスブールはアルザス地方というフランスの東部、ドイツとの国境にある美しい街で、古くから交通の要所として“ヨーロッパの十字路”などと呼ばれてきました。世界遺産である大聖堂や、旧市街の魅力的な街並みなどをご存知の方も多いでしょう。

ストラスブールはまた、欧州議会、欧州評議会、欧州人権裁判所などのヨーロッパ共同体の機関があるばかりでなく、国際的な学術都市としても知られ、ストラスブール大学からは、多くのノーベル賞受賞者が輩出しているほか、欧州科学財団（ESF）や国際 HFSP（ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム）推進機構が置かれています。

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センターは、2001年5月にストラスブール市内の日仏大学会館に設置され、2002年4月より本格的な活動を開始し、中谷陽一センター長を中心に、関百合子氏（現文部科学省）、続いて荒木良江氏（現北陸先端大学院大学）が協力して、日仏の学術交流促進のために活動してまいりました。

この4月より、白石賢一が副センター長として、および吉原英恵が国際協力員として着任し、フランス全土を担当区域として活動しております。総勢3名の小さなセンターながら、益々活発に日仏の交流に貢献する所存ですので、どうぞ宜しくお願いします。



ストラスブール大聖堂



日仏大学会館の建物

学術セミナー及びルイ・パスツール大学（ULP）との Joint Seminar の開催

2003年より、日仏大学会館との共催で、日仏の研究者に講演をお願いし、様々なテーマで学術セミナーを開催しています。また、フランスの大学を訪れる日本人研究者を支援する一環として、ルイ・パスツール大学との合同セミナーも開催しています。4月～6月は合計7回のセミナーを開催しました。

- 4/11 第45回学術セミナー Prof. Daniel Uguen (ECPM-ULP)
「プロピオン酸の世界を垣間見る」
- 5/9 第46回学術セミナー 堀口健雄助教授（北海道大学大学院理学研究科）
「マラリア病原虫はかつて藻類だった：藻類に見る葉緑体の進化」
- 5/12 第2回 ULP-JSPS 合同セミナー 袖岡幹子主任研究員（理化学研究所）
「パラジウムエノレート化学を基盤にしたエナンチオ選択的触媒」
- 6/6 第47回学術セミナー 物部浩達主任研究員（産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門）
「赤外振動励起法による液晶性半導体の配向制御」
- 6/12 第3回 ULP-JSPS 合同セミナー 吉沢道人助手（東京大学大学院工学系研究科）
「自己組織化ナノ空間を活用した特異反応の創出」
- 6/22 第48回学術セミナー 吉田稔主任研究員（理化学研究所中央研究所）
「天然生理活性物質の化学遺伝学から化学ゲノミクスへの展開」
- 6/23 第4回 ULP-JSPS 合同セミナー 大森健助手（東京工業大学大学院理工学研究科）
「フラバン系ポリフェノールの合成研究:カテキンオリゴマーの選択的合成法の開発」



第45回学術セミナー

講演者 Daniel Uguen 先生、科学アカデミー会員
Michel Rohmer 先生、JSPS Fellow- Dr. Nigel Ribeiro、
（後列左より5、6、7番目）尾谷領事、上園領事
（後列左より2、3番目）近藤 JSPS 海外特別研究員
（前列左より2番目）吉原国際協力員（前列左端）



第47回学術セミナー

講演者：物部浩達先生（右より5番目）



第2回 ULP-JSPS 合同セミナー
講演者：袖岡幹子先生



第 46 回学術セミナー
講演者：堀口健雄先生



第 48 回学術セミナー
講演者：吉田稔先生



第 3 回 ULP-JSPS 合同セミナー
講演者：吉沢道人先生



フランスの大学、グランゼコール、研究機関での JSPS 事業説明会及び JSPS 同窓会支部会の実施

フランスには 26 の学区（フランス本土）に 92 の大学と 226 のグランゼコールがあり、パリだけでなく、地方にも有力な大学や研究機関が多く設置されています。それらの高等教育機関を訪問して、学長・副学長など幹部と意見交換を行い、各分野の研究室訪問を行うとともに、JSPS の事業説明会及び JSPS 同窓会支部会を開催しています。そこでは、本センターが行うプレゼンテーション・資料配布に加えて、実際に JSPS フェローとして日本滞在経験のある研究者が自身の体験を語る構成で、そのあとの懇談の場などで出席者から日本との交流を身近に感じられると、大変好評を博しています。

5 月 23 日 Rennes 第 1 大学（レンヌ）

レンヌはブルターニュ地方の首都として、中世からの長い伝統を保っていますが、最近では、先端科学技術の大学都市へと変貌しつつあります。Rennes 大学は 1735 年にその創設を遡り、1969 年の学制改革により法学・経営経済学・医学・理工学の分野を受け持つ Rennes 第 1 大学と、言語学・人文社会学・芸術学・文学・情報学・体育学の分野を受け持つ Rennes 第 2 大学に分割されました。

私達が訪問した Rennes 第 1 大学は、13 の学部と 4 つの付属短期工科大学を持ち、約 22,000 人の学生と約 2,500 人の教職員がいます。66 の研究・教育施設をもつ広大な Beaulieu キャンパスに Raymond Marie 副学長を訪れ、同キャンパスでの研究全般についての説明を受けた後、化学研究科 Pierre Dixneuf 教授（JSPS OB）の案内で、触媒・有機金属、無機化学、分子材料、固体・材料化学、セラミック、応用機械工学、原子物理学、物性物理学の諸研究室を訪問しました。学振事業説明会、Hervé Caillaud 研究担当副学長による Rennes 第 1 大学の国際事業についてのプレゼン、続いて、レンヌ JSPS 同窓会支部会の 8 名による日本における研究滞在について発表がなされました。



Rennes 第 1 大学にて
司会を担当する Pierre Dixneuf 教授



前列左から Hervé Caillaud 副学長、
Raymond Marie 副学長



日本での研究滞在の経験を語る
Virginie Nazabal 博士

6 月 1 - 2 日 Laboratoire d'Analyse et d'Architecture des Systèmes (LAAS) (トゥールーズ)

ミディ・ピレネー地方の中心都市であるトゥールーズは、レンガ造りの建物が並び「バラ色の街」と呼ばれます。トゥールーズは、3 つの大学と 14 のグランゼコールを擁し、11 万人以上の学生が学ぶ大学の街です。また、航空産業の街としても知られており、エアバス社が本社を置き、私たちが訪問した市の郊外にある巨大な飛行機組立工場では、超大型機 A380(民間機で世界最大)などの生産を行っています。

LAAS は、CNRS の研究所であり、マイクロ・ナノシステム分野や、機械の自動制御分野の研究を進めています。Malik Ghallab 研究所長から同研究所の説明を受けた後、Laurent Jalabert 博士（JSPS OB）の案内により、クリーンルームや JRL を見学しました。JRL（Japanese-French Robotics Laboratory）は、産業技術総合研究所（AIST）と CNRS の共同ラボラトリーであり、AIST から派遣されている吉田英一主任研究員の下、日本のロボットを利用した研究が行われています。

JRL の HP 参照 (<http://www2.laas.fr/JRL-France/>)



バラ色の街
トゥールーズ



Airbus A380 機
組立工場

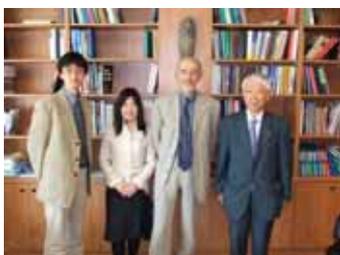


JRL
ロボット試運転

本年 2 月より準備を進めていた LAAS - JSPS Strasbourg Office - JSPS French Alumni(Toulouse 支部会)共催の
ナノバイオテクノロジーセミナーを開催しました。

講演者・演題 : Dr. Luc Mieussens(Paul Sabatier 大学数学研究科、JSPS OB) “Research Collaboration in Mathematics
with Japan”、 Prof. Alain Milon (Paul Sabatier 大学研究担当副学長、JSPS 同窓会副会長) “ Research activities of the
Institute of Pharmacology and Structural Biology”、小田玲子博士 (Institut Européen de Chimie et Biologie de Bordeaux、
JSPS 同窓会会計) “Chiral self assemblies of lipidic molecules : Structure, dynamics and functionalisation of nanometric
architectures”、Dr. Christian BERGAUD(LAAS-CNRS、JSPS OB、前 LIMMS 所長)“Presentation of LIMMS-CNRS”

続いて、学振事業説明会及びトゥールーズ JSPS 同窓会支部会による発表会が開かれました。



LAAS にて
Malik Ghallab 所長(右より 2 番目)



LAAS にて学振事業説明会
中谷センター長



セミナー主催者 Dr Laurent Jalabert、
Alain Milon 先生、小田玲子先生
(前列右より 1,3,5 番目)

6 月 14 日 Lille 第 1 大学、Ecole National Supérieure de Chimie de Lille、Ecole Polytechnique Universitaire Lille、Ecole Centrale de Lille (リール)

フランドル地方の首都リールはパリ・ブリュッセル・アムステルダム・ロンドンなどヨーロッパの中心都市
への交通の要所として、古くから近隣諸国との文化交流が盛んでした。最近では 1971 年にトヨタが近郊に進出
しており、日本との産業界における交流も活発です。

Lille 第 1 大学 (リール理工科大学) は、約 20,000 人の学生と約 2,400 人の教職員をもち、13 の学部と、付
属機関として Ecole National Supérieure de Chimie de Lille (ENSCL)、Ecole Nouvelle d'Ingenieurs en
Communication、Ecole Polytechnique Universitaire Lille、及び短期工科大学を持っています。

化学研究科 André Mortreux 教授の案内で、ENSCL を訪問し、Jean-Claude Boivin 学長から日本との学术交流
について説明を受けた後、化学研究所、物理学研究所、Polytech Lille、Ecole Central de Lille を見学しまし
た。また、同大学国際担当 Isam Shahrour 教授と国際事業についての意見交換を行いました。

学振事業説明会の後、Frank Dumeignil 教授 (JSPS OB) 司会によるリール JSPS 同窓会支部会による発表会が
開かれました。



ENSCL にて
Jean-Claude Boivin 学長 (右端)
André Mortreux 教授 (中央)



日本の研究滞在の経験を語る
Frank Dumeignil 教授

6 月 15 日 Lille 第 2 大学、Institut Pasteur de Lille (リール)

1559 年スペインのフィリップ 2 世によって創立された法学部と医学部を起源とする Lille 第 2 大学は、約
23,000 人の学生、約 2,000 人の教職員があり、6 つの学部よりなっています。Christian Sergheraert 学長を
表敬訪問し、同大学の日本との学术交流について意見交換をした後、Institut Pasteur de Lille を訪問し、
Monique Capron 教授(INSERM 研究ユニット長)の案内で同研究所の諸研究室および施設を見学しました。

学振事業説明会を行い、その後、André Capron 前研究所長(フランス科学アカデミーキャビネットメンバー、国際局長)と9月5日に開催予定の Workshop についての打合せを行いました。



Lille 第2大学にて
Christian Sergheraert 学長(左より2人目)
Monique Capron 教授(同3人目)



Institut Pasteur にて
学振事業説明会

6月16日 Picardie Jules Verne 大学 (アミアン)

ゴシック式の大聖堂とジュール・ベルヌが住み、多くの作品を書いた街として知られるアミアンは、1974年に味の素が Eurolysine を設立し、日本との交流も盛んになっています。Picardie Jules Verne 大学は1970年に設立され、大学の歴史は浅いのですが、現在は、約21,000人の学生、約2,000人の教職員を持ち、12の学部と、6つの付属工科大学から構成され、活発に研究・教育を行っています。

同大学化学研究科の Jean-Marie Tarascon 教授と第5回 JSPS フォーラムについて打合せした後、Christian Masquelier 教授(欧州修士課程主任)の案内により、化学研究所、反応・固体科学研究所を見学し、その後、学振事業説明会を行いました。



Picardie Jules Verne 大学化学研究所にて
化学研究科長 Denis Postel 教授
(左より2人目)
Christian Masquelier 教授(左より3人目)



Picardie Jules Verne 大学にて
事業説明会
若い研究者や学生が多数参加

外国人特別研究員(欧米短期)の選考

当センターでは CNRS と協力して外国人特別研究員(欧米短期)の選考を実施しています。年2回 CNRS との合同選考会を行い、採用候補者を東京に推薦しています。

6月7日に当センターにおいて、平成18年度第2回目の募集分について CNRS との合同選考会議を CNRS アジア・パシフィック課長 Dr. Minh-Ha Pham-Delègue、同課日本・韓国担当 Monique Benoit 氏と開催しました。



Dr. Minh-Ha Pham-Delègue (後列右)
Ms. Monique Benoit (後列左)
白石副センター長(前列左)

日仏大学会館活動への協力

当センターは、日仏大学会館が主催するシンポジウム・講演会等にも積極的に参加・協力をしています。6月27日~6月30日にかけて、日仏共同博士課程で2006年9月に日本に派遣予定のフランス人大学院生が日仏大学会館にてオリエンテーションを受講し、中谷センター長による講義(題目:「日本における研究」)が行われました。

JSPS-French Academy of Sciences Workshop: "Translational research from genome-based sciences to clinical medicine"の開催について(お知らせ)

2006年9月5日(火)にパリ学士院において、JSPS とフランス科学アカデミーとの共催によるワークショップを開催します。

日本側 : チームリーダー菅野 純夫 教授(東京大学医科学研究所) 講演者: 祖父江 元 教授(名古屋大学大学院医学研究科) 小室 一成 教授(千葉大学大学院医学研究院) 岡野 栄之 教授(慶応大学医学部) 牛首 文隆 教授(旭川医療大学大学院医学系研究科) 西道 隆臣 教授(理化学研究所 脳科学総合研究センター)
フランス側 : チームリーダー Prof. Arnold MUNNICH (Paris 第5大学, Necker 病院) 講演者: Prof. Corrine ANTIGNAC (Paris 第5大学, Necker 病院) Prof. Alexis BRICE (Insem, Pitie Salpetriere 病院) Prof. Jamel CHELLY (Paris 第5大学, Institut Cochin) Prof. Mark LATHROP (Centre National de Genotypage) Prof. Stanislas LYONNAIS (Paris 第5大学) Dr. Jocelyn LAPORTE (Louis Pasteur 大学, IGBMC)